

HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2024 Vol.115

- P1 **特集** 社会福祉事業所紹介
医療福祉を提供し、地域と共に歩み、
安心して暮らせるまちづくりを
医療法人 真誠会
「介護老人保健施設ゆうとぴあ」
- P5 チャレンジ福祉の仕事
医療法人 真誠会
「介護老人保健施設ゆうとぴあ」
- P6 福祉専門職の紹介
人間らしく生きる権利を再構築していく
「作業療法士」OT
- P7 福祉人材センター情報
福祉の職場で働きたい方と人材を求める
事業所との橋渡しをしています
- P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
まちのわ宝木
- P9 ボランティア・市民活動センター情報
「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」
大会ボランティア大募集
- P11 ことぶき高齢者情報
ねんりんピック愛顔のえひめ
- P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

在宅復帰を目指して多職種が意欲に込める取り組み



リハビリテーションの専門職が一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活や身体機能の維持・向上をサポートしています

医療法人 真誠会 「介護老人保健施設ゆうとぴあ」

医療法人・社会福祉法人 真誠会は、真誠会セントラルクリニックを中心として、米子駅以西に米子・米子中央・弓浜・外浜のホスピタウンネットワークを形成し、医療・保健・福祉の様々なサービスを運営しています。

「介護老人保健施設(老健)ゆうとぴあ」は、弓ヶ浜にほど近い米子ホスピタウン内にあり、老健の目的である「在宅復帰」を目指す利用者を多職種が連携して多面的に支援し、高い在宅復帰率を実現しています。



※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

医療福祉を提供し、地域と共に歩み、 安心して暮らせるまちづくりを

「介護老人保健施設(老健)」は、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、作業療法士(OT)や理学療法士

(PT)言語聴覚士(ST)などによるリハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまであわせて提供する施設です。ゆうとぴあでは、地域に開かれた施設として、利用者一人ひとりの状態や目標に合わせたケアサービスを、医師

多職種連携と専門性の 発揮で在宅復帰を実現

をはじめとする多職種専門スタッフが連携して行っています。

ゆうとぴあは、老健に求められている在宅復帰に対する在宅復帰率や病床回転率などで構成される算定値において、もつとも高い「超強化型」を実現しています。そこには「在宅復帰に向けて多職種連携が活発に図られ、在宅復帰を実現するために必要な(利用者の身体精神機能改善)〈自宅環境の調整〉(家族の介護力向上)の3つの構成要素が充実していると考えられます」と話す、両法人の理事長である前田浩寿さんは「在宅復帰をするためには、多職種連携と多職種の専門性の発揮が必須です。そして、在宅復帰した後のサービス事業所との連携は欠かせません。そこで各専門職の意見を検討する(多職種カンファレンス)を行っています」と続けます。



相部屋だった居住スペースもプライベート空間となった居室に

その中心となるのが、セントラルクリニックの常勤医師で、ゆうとぴあを担当する星尾彰さんです。星尾医師は「老健の利用者は、多種多様な疾患を持っています。それに対して看護・介護・リハビリ・相談員など、さまざまな専門職が連携しなくてはなりません。それは、重要な歯車であり、ひとつでもなくなると成り立ちません」と連携の重要性は、医療的ケアの水準を高めるためにもあると話します。

その中心となるのが、セントラルクリニックの常勤医師で、ゆうとぴあを担当する星尾彰さんです。星尾医師は「老健の利用者は、多種多様な疾患を持っています。それに対して看護・介護・リハビリ・相談員など、さまざまな専門職が連携しなくてはなりません。それは、重要な歯車であり、ひとつでもなくなると成り立ちません」と連携の重要性は、医療的ケアの水準を高めるためにもあると話します。



医療法人・社会福祉法人
 真誠会
 まえだ ひろとし
前田 浩寿
 理事長

在宅復帰のために 在宅を知る大切さ

ゆうとぴあでは、在宅復帰した後併設の通所リハビリテーションを利用するケースが多く、利用者は在宅サービスの新しい環境に飛び込むこととなります。

その負担を軽減するためにも「入



セントラルクリニックとゆうとぴあ常勤の星尾彰 医師

医療法人 真誠会「介護老人保健施設ゆうとぴあ」

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。



リフトを使ったノーリフティングケアで負担の軽減を図っています

所中から通所リハビリテーションの職員がリハビリを行い、通所の環境で過ごして頂くことで、在宅復帰する不安の解消にも繋げており、職員も安心して利用者の情報共有をしています」と、ゆうとぴあの事業所長でOTでもある森貴広さんは話します。

ゆうとぴあでは在宅アセスメントシートを活用し、在宅訪問を積極的にに行っています。動作や環境確認ができるセラピストと、実際のケアに入る介護士や看護師が在宅訪問をして、課題抽出から目標設定、ケアプランを展開しています。

その背景として「老健の職員で、在宅サービス経験のある職員は5割に満たない現状なので、まずは在宅を知ろう！」と強調しています。在宅復帰を目指す老健こそ在宅の視点が必要であり、在宅を知らずに在宅復帰を考えることはできません。超強化型老健と名乗るならば、

在宅を知るために、在宅へ足を運ばなければなりません」と、事業所長の森さんは話します。

地域とともに 医療福祉のまちづくりを

真誠会では、地域包括ケアシステムを構築するためにも、地域との密な繋がりが欠かせないことから「同じ目的に向かって共に行動する」を掲げ、地域に向き、共に悩み、共に考え、共に汗をかく活動を行っています。



昔盛んだった「伯州綿」の栽培を復活させ、地域活動の伝承と多世代の交流に繋げる

〈地域ケア会議〉では、希薄になつてきた地域住民のつながり(絆)を高めるために、地域ケア会議を開き、地域の課題を共有し、解決に向けた一助としています。〈伝承〉においては、和田地区で昔盛んだった「伯州綿」の生産を今一度再開し、地域活動の伝承と共に多世代の交流にも繋げようと、近隣の保育園・小学校の子ど





事業所長 森さんからのメッセージ

介護や福祉の仕事は、様々なイメージもあり、誰もが簡単にはできない仕事ではないと思っています。これから福祉職場を目指す皆さまには、敬意と期待の気持ちでいっぱいです。

介護老人保健施設は、在宅復帰という入所者と家族の目標に対して、多くの専門職が知識や技術を出し合い、同じ方向を向いて、ケアやリハビリを展開していく場所です。良いことも悪いこともあり日々勉強ですが、専門職としてのやりがいを強く感じることができます。

入所者から感謝をいただくだけでなく「関わらせていただき、ありがとうございます」と心から感謝を伝えることのできる仕事を、我々と一緒にやってみませんか。

「立てなかつた利用者が立てるようになってきたり、車椅子を自分で操作できない利用者ができるようになる

どのような状況でも在宅復帰できる喜びを

また「米子市医療介護連携ガイド活用推進事業」においては、米子市の委託を受け、在宅医療を提供する機関を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域の包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指しています。

もたちと伯州綿の栽培を行つています。(青空市場)では、認知症の方の活躍の場、認知症の理解啓発活動として、脳活性クラブ若竹庵が野菜作りを行い、地域の方に向けて収穫した新鮮野菜の販売などを毎月開催しています。

「老健は在宅復帰支援だけではなく、看取りケアも行います。家に帰りたい」という本人の気持ちと、最期は家で看取りたい」という家族の強い

支援相談員の山下智子さんは、「自宅に帰れない利用者が、家族の協力のもと自宅に帰れ、久しぶりに会った家族に見せた笑顔にとっても嬉しい気持ちになりました」と、在宅復帰の大切さを考えさせられたとも話します。



介護副主任の竹宮早紀さん



支援相談員の山下智子さん

思いを受け、自宅に帰るサポートをします。ケアマネジャーの協力を得ながら訪問診療と看護、福祉用具の手配ができ、無事に自宅に帰ることができました。自宅では食事や、家族との団らんの時を過ごされ、『帰った翌朝に眠るように息を引き取りました。とても満足そうな顔をしていました。私たちも悔いはありません』とご家族から聞き、寂しい気持ちもあるが支援できて良かったと話します。

在宅復帰の姿は様々ですが、その意義は深く尊いと感ぜられます。

【概要】

- 所在地／鳥取県米子市河崎581-3
- 開設日／1992年(平成7年)2月6日
- 運営主体／医療法人 真誠会
- 職員数／職員数68名(正職員53名・臨時職員等15名)
内訳:管理者1名、医師1名、看護職員8名、介護職員32名、介護補助6名、支援相談員3名、理学療法士6名、作業療法士6名、言語聴覚士2名、管理栄養士2名、介護支援専門員1名、歯科衛生士1名
協力医療機関:真誠会セントラルクリニック
- 定員／89名(ショートステイ含む)
- 利用(受付)相談窓口:当該施設・運営法人



福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

夢や希望を一つでも多く叶えられるように

「介護老人保健施設ゆうとびあ」

言語聴覚士

竹内 志野さん



「友人のお父さんが失語症になったときに、言葉のリハビリを行う言語聴覚士という仕事を学びました」と話す竹内志野さんは、前職で働いていたときに、将来の自分の人生を思い描き、自分も好きな「食べる」としやべることを楽しむことができるようにサポートする言語聴覚士の仕事に興味と夢を抱いて、養成校に入学しました。福祉の現場にいたときは、言語聴覚士としての業務以外に覚えることやること、気を配ることが多いことを痛感した竹内さんですが、現在は、介護老人保健施設「老健」デイケア訪問など、法人のすべてのサービスに関わり、嚥下（飲みこみ）やコミュニケーション能力の評価、嚥下訓練、言語訓練、本人家族職員へのアドバイスや自主訓練の提案指導などを行っています。

そして、利用者や家族の「したい」「やってみたい」「こうなりたい」という希望に対して話を聞いて評価を行い、もし希望どおりにならない場合でも「こういう方法なら可能」「これは無理でもこれならできる」など、代替案を提案できるように努めています。

そんな中で、利用者の家族やスタッフから「竹内さんに相談してよかった」「アドバイスしてもらって安心できた」「利用者の笑顔が増えた」と言ってもらえたり、利用者から「あなたのおかげで食べられるようになった」と感謝してもらえたときには、「この仕事に就いて良かったと、やりがいと喜びを感じている」と、竹内さんは話します。

ゆうとびあでは、一人の利用者に対して各専門職で話し合い、色々な角度からサポートを行っています。「利用者や家族の夢や希望を一つでも多く叶えられるように、これからも知識と技術や経験を身に着たいです」と話す竹内さんは、少しずつ自分が成長していることを実感しているように。



在宅復帰が実現できる喜びをともに

「介護老人保健施設ゆうとびあ」

理学療法士

松本 美瑠生さん



高校2年生の進路を決める頃に、理学療法士という仕事を知り、魅力を感じたことから養成校で資格を取得した松本美瑠生さんは、福祉の現場に就いたときは「人と関わるからこそ大変なことたくさんあると感じましたが、仕事を重ねるうちに、やりがいを感じるようになりました」と話します。

現在、理学療法士として身体機能、日常生活動作（ADL）能力の評価を行い、適切な福祉用具や環境の調整のほか、入所・退所前後の自宅訪問を実施し、スタッフ間で情報を共有して在宅復帰に向けて支援しています。

そんな中で、人生経験の豊富な利用者の方々に、生活の知恵や人生について話を聞いて学ぶことが多くあり、「この仕事だからこそ聞ける貴重な話だ！この仕事に就いていて良かったと思えます」と笑顔を見せます。

松本さんの担当で、夫と二人暮らしの90代女性が、ゆうとびあに入所しました。二人は「できることなら一緒に暮らしたい」という思いがあり、在宅生活ができるよう支援しました。そして、ある程度自分で動けるようになるなど、夫にもADLに合わせた移乗動作などを指導し、必要な介護保険サービスなどを提案して自宅への退所に繋がりました。

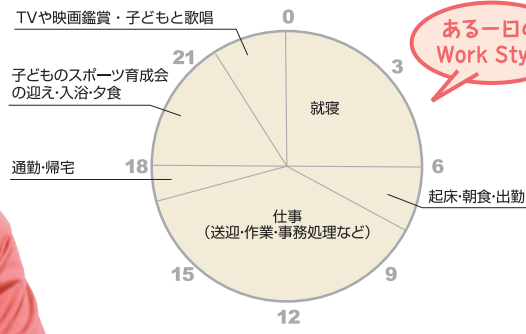
「利用者本人と家族が望む在宅復帰が実現でき、その生活が続けられることは、担当スタッフとしてとても嬉しいことで、一緒に頑張れて良かった」と松本さんは振り返ります。また、100%の自信を持って支援ができていくわけではないので、「ありがとう」と言われると「私がかつてきたことは間違いではなかったんだ！」と、大きな喜びとともに自信につながる話します。



松本さんは、他職種との連携と良好な関係を築くことを大切にしています。それは「人との関わり方」を大切に「利用者とその家族だけではなく、働いているスタッフもハッピーな職場」であることを願っているからです。

福祉専門職の紹介「作業療法士」OT (Occupational Therapist)

人間らしく生きる権利を再構築していく



ある一日の Work Style

医療法人 真誠会
「介護老人保健施設ゆうとびあ」
おかだ けんご
作業療法士 岡田 健吾さん

「作業療法士」は国家資格で、体と心のリハビリテーションの専門家として作業療法を行います。「作業」とは、食べたり入浴したり、家事や仕事、趣味活動など生活に関わるすべての諸活動のことを指します。病気やけが、心の病、認知症など、様々な要因でその人らしい作業が行えなくなったり、基本的な応用社会的適応能力の改善を図り、作業を通じて諸活動ができるように援助するのが作業療法士です。



現在の仕事の内容を具体的に教えてください

機能訓練や日常生活動作訓練等を実施し、できる限り自宅で生活が続けられるようサポートをしています。また利用者が、能力の維持・向上が図れる環境や、スタッフが働きやすい環境を整えられるよう業務に取り組んでいます。

仕事のやりがい、魅力などを教えてください

担当した利用者が、障がいを負ったことで社会との繋がりを絶ち、引きこもり生活でした。初めは支援を拒否されましたが、何度も会って話しをする中で、もう一度写真が撮りたいと言われました。そこで写真を取りに出ると、

徐々に夢中になり、少ししか動かなかったはずの左手はカメラを支えています。「心が動けば身体も動く」まさにその瞬間でした。
もう一度人生に希望を見出すきっかけづくりができ、その人らしい社会復帰の手伝いできたときは、やりがいを感じます。また、作業療法士は身体と心の両面からサポートができることが魅力だと感じています。

「この仕事に就いて良かった」と思うのはどんな時ですか？

利用者の中に、「靴下が履けるようになった」「自分で服が脱げるようになった」「いい格好で同窓会に参加したい」といった、できるようになったことのフィードバックや、活動や参加に対して前向きな発言が聞かれたときは、とても嬉しく思います。自分と利用者だからこそ出せた効果だと思っているので、そんなときにこの仕事に就いて良かったと思います。

仕事をするうえで大切にしていることは、どのようなことですか？

「自分のためではなく、人のために生きよう」とするとき、その人は、もはや孤独ではない。故日野原重明医師の言葉です。

利用者の中には孤独を感じている人はたくさんいると思います。自分が関わること、誰かのためになるという役割を見出すことができ、少しでも生き喜びへと繋がるよう、日々の関係を大切にしています。



休日は何をしていますか？

家族は、妻と子供が3人で、妻の両親と一緒に暮らしており7人家族です。今は生活が少年野球をしている長男中心になっているため、年下の2人との時間をより大切にしています。子供たちの成長をみることも楽しく、身体も動きますのでリフレッシュにも繋がっています。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

鳥取県福祉人材センターのご案内

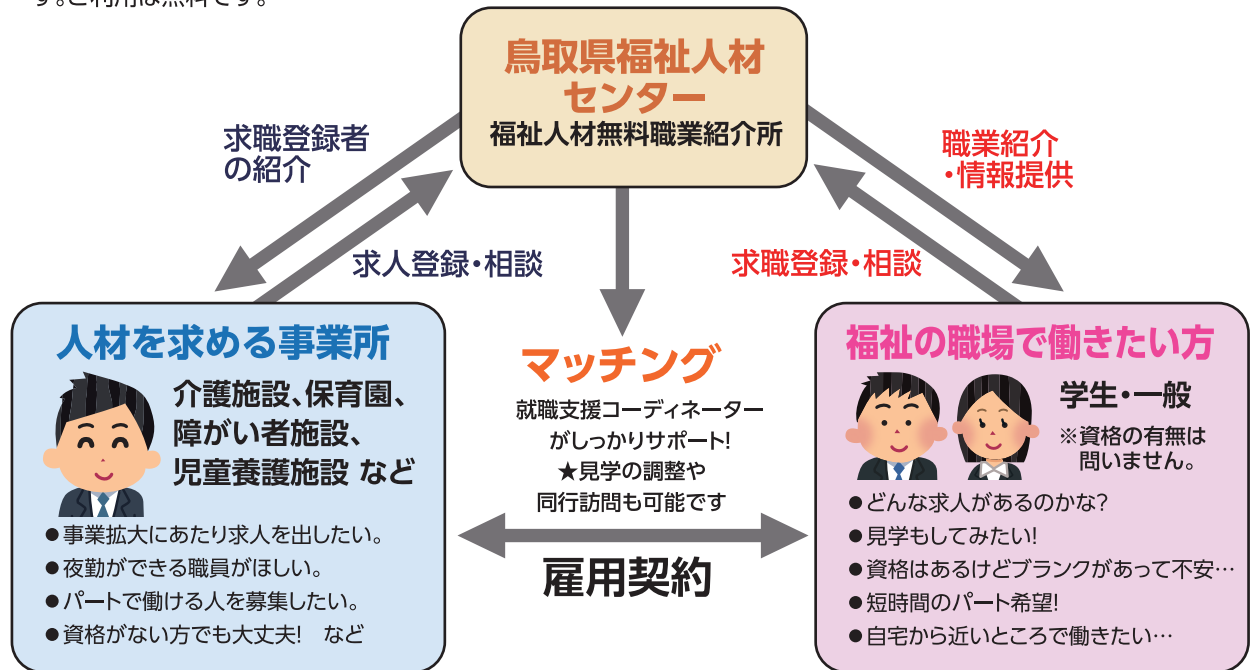
福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業(厚生労働大臣許可)をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行います。

また、人材を求める事業所には、求人条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



まずはご相談ください!

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341

【開設日】 月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人登録・求人票の閲覧ができます。

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索



とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

まちのわ宝木

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい／ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体についてその活動や想いを紹介します。

[ホームページ] <https://www.torivc.jp>



インタビューに参加いただいた皆さん(向かって前列左から、和田寛子さん、佃弥生さん、柴田詩緒さん、高橋和加さん。後列左から 吉村文夫さん、本部伸一さん、尾崎翔吾さん)



宝木てくてくマーケット①

「きっかけは宝木駅舎の簡素化のニュースでした」と代表の柴田詩緒さんは語ります。以前より少子高齢化や商店の閉店等の課題を抱えていた地域で、さらに人が集う場の消滅危機に、「何かできることはないか」と思った子育て仲間ら5人で「まちのわ宝木」を立ち上げました。副代表の高橋和加さん、佃弥生さんと和田寛子さんもその時のメンバーです。

しかし、5人ともこれまでまちづくり

子育て仲間らが立ち上げ

「きっかけは宝木駅舎の簡素化のニュースでした」と代表の柴田詩緒さんは語ります。以前より少子高齢化や商店の閉店等の課題を抱えていた地域で、さらに人が集う場の消滅危機に、「何かできることはないか」と思った子育て仲間ら5人で「まちのわ宝木」を立ち上げました。副代表の高橋和加さん、佃弥生さんと和田寛子さんもその時のメンバーです。

しかし、5人ともこれまでまちづくり

まちにかつてのにぎわいを！住民たちが始めたチャレンジ



宝木てくてくマーケット②

活動に携わったことはありません。まずは地域の声を聞こうと、区長や地域住民、PTA保護者などに呼びかけて座談会を実施しました。参加者からは「にぎわいを取り戻してほしい」「コロナ禍で顔を合わせる機会がなくて寂しい」といった声がありました。

はじめは宝木郵便局内でのカフェスペース設置や子ども向けの工作教室などを実施していました。その後、地域住民が出店などで参画するマーケット、認知症カフェや、宝木駅の清掃、まち歩きイベントやMAP作成、歴史や文化を学ぶ会など少しずつ活動を広げています。「メンバーもみな本来の仕事しながらの活動です。ゆるりと長く続けていければ」と柴田さんは語ります。

広がる人の輪

「まちのわ宝木」の取組は地域の人も広がっています。

「イベントに参加しているうちにいつのまにかメンバーになっていました」と語る尾崎翔吾さんその一人です。

出店やボランティアで協力する方も増えていきます。マーケットで「コーヒーをふるまう本部

伸さんは、個人で焙煎珈琲を楽しんでいましたが、それを知った柴田さんに声をかけられ、思い切って出店しました。その味は好評でリピーターもいるほどです。

区長を務めたこともある吉村文夫さんは自分たちより若い世代が頑張っていることに感銘を受け、「何か手伝えることはないか」と声をかけたそうです。宝木駅のトイレの清掃や、地区の歴史文化を伝える講師として活躍しています。

共に活動するボランティア約20人の他、中高生も手伝っています。顔だけ知っている人が、ともに地域を盛り上げる仲間になっていく「輪」が広がっています。

人と人がつながる宝木地区へ

「普段なかなか出歩けない高齢の方が、マーケットに知人が出店するからとわざわざ来てくれました。自当分の財布が買えて「来てよかった」と言ってくださり嬉しかったです」と高橋さんは振り返ります。マーケットがまるで地区の同窓会のようなだと喜び声も上がっています。人と人、人と地域をつなぐ活動は確実に進んでいます。

「ぜひ宝木へ来て、交流を楽しんでみてください」と柴田さんは呼びかけます。まちのわ宝木では、マーケット等イベントへの参加者や出店者、一緒に活動してくれる仲間やボランティアを募集しています。

まちのわ宝木

「問合せ先」

電話 090-071-9-6110(柴田)
E-mail: balletschoolis201009@major.ocn.ne.jp

「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」大会ボランティア大募集

大会成功に求められる
おもてなしの心と
ボランティア精神



第36回全国健康福祉祭とっとり大会

ねんりんピック はばたけ鳥取2024

咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花

令和6年10月19日(土)～22日(火)

第36回全国健康福祉祭とっとり大会「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」が、令和6年10月19日から22日にわたり、県内各市町村で各種交流大会が開催されます。それに際して、5月31日までに延べ1000人の大会ボランティアを広く募集しており、すでに登録ボランティアによる事前PR活動が行われています。



ミニワークショップの発表をするグループ



事前研修会講師の植田英樹さん

鳥取に来てよかった
と思ってもらえるために

ねんりんピックは60代以上の高齢者を中心に、スポーツや文化交流の交流を通じ、世代を超えて交流の輪を広げる、健康と福祉の総合大

会です。とっとり大会には全国から約1万人の選手・関係者が訪れます。その人たちに、心温まるおもてなしで鳥取に来てよかったと思っていただける大会とするためにもボランティアの協力が必要です。

その大会ボランティアの活動内容は、リハーサル大会や各種事前イベントなどの補助と広報活動をする「事前PR活動」と、大会を成功させるための企画を考えるミーティング・意見交換をする「イベント提案・企画」、そして開閉会式やイベント会場での受付・案内と主要駅・空港などでの選手の歓送迎をする「大会運営補助」が主な活動となります。

まず自分自身が楽しむことで人生を楽しむもの

大会ボランティアに求められる、おもてなしの心やボランティア精神を学び、円滑な大会運営を図るために、ボランティアに登録している人と関心のある方を対象とした事前研修会が、昨年から開催されています。

この日、県立福祉人材研修センターで開かれた研修会は、講師に鳥取情報文化研究所代表の植田英樹氏を招き、ねんりんピック鳥取大会の概要とボランティアの活動内容についてのオリエンテーションの後、「ボランティアで人生充実だ！」と題してボランティアの基本、楽しみ方、おもてなしの心とその方法などについて講義を受け、鳥取の食のファンになる

ミニワークショップで講師がアドバイス



おもてなし企画を考える、ミニワークショップが行われました。

その中で植田氏は「ボランティアは、自分自身のためにすることで、達成感や人に喜びや幸せを与え、かけがえない仲間を創る行為で、人生が楽しくなるもの」と強調しました。また、ボランティアの行動意識として、自分がされたらうれしいことを考える、こんなことがあったらスゴイを妄想するなど「まず自分自身が楽しむ」ことが大切だと話しました。

ねんりんピック ボランティアセンターLINE公式 アカウントはじめました!

LINE公式アカウント「友だち登録方法」

①QRコードで登録

「友だち追加」の「QRコード」をタップ
右図QRコードを読み込んで「追加」



②ID検索で登録

「友だち追加」の「検索」をタップ。ID「@032uttvyj」で検索し「追加」
※ID検索の際は「@」も含めて入力してください。

一緒にチャレンジしませんか!

「ねんりん

研修会参加者インタビュー

植田さんと同じ鳥取県信用保証協会に勤務する尾崎裕一さんは、所属団体有志での参加で〈あいサポートアートとっとり展〉や〈小さな親切運動(浦富海水浴場清掃)〉に子どもと参加した経験があります。

「以前から有志でボランティア活動をして、経験してよかった、気持ち良かったと思うことが多く、今回も何か役に立てればと思い登録しました」と話す尾崎さんは「これまで新たな経験や人との出会いに触れ、参加して良かったと思う体験から、今回もやってみよう」と“自分が楽しむ”気持ちですと、ボラン



ティアの秘訣を知り、「あまり気負うことなく、都合がよければ参加する感覚で一緒に楽しみましょう」と登録を呼び掛けます。

作業療法士で介護支援専門員の坂本一郎さんは、職場のある地域を中心に、認知症の啓発やイベントを開催など、地域の繋がりを深める活動に取り組んでおり、「何ができるのかは分かりませんが、来場される方々が楽しみ、笑顔が溢れる関わりや雰囲気づくりができればうれしいです」と話します。

そして「無理のない範囲で短時間でもできることがあれば、肩肘を張らないで参加しようと考えてい

ます。そんな気軽な気持ちで多くの人に参加することで、無理なく協力して楽しみながらできると思います。少しでもよいので一緒に想い出づくりをしてみませんか」と、ボランティアは無理をしないことが大切だというコツでもあります。



ボランティアは無理なく楽しみながら

事前研修会に参加した橋本さんご夫妻は、「若い参加者が多く、若い人の力が発揮されると思うてうれしいですね」と感想を抱き、「ねんりんピックって何か楽しそうだと思い、夫婦で同じ思い出を共有するのいいものだ」と、ボランティア登録をしたと話します。そして「笑顔と思いやりの心で接したいと思います。参加する選手たちには、良い大会だった、楽しかったと思ってもらえたらうれしいですね」と、縁の下の力持ちのような役として“一緒に笑顔いっぱいのおもてなしをしましょう”と呼び掛けます。



ボランティアで得た学びは日常生活にも役立つ

鳥取県立鳥取西高等学校3年生の小谷峻一さんは、〈あおやさんぽフェス〉〈青谷かみじちフェスタ〉〈鳥取日曜朝市〉〈鳥取コネクト広場〉などでのボランティア活動経験があり、「地元鳥取で全国的な大会が行われると知り、関



わってみたいと思いました。地域のことに興味があり、人と関わることも好きで、自分に向いていると感じた」ことから登録したと話します。

また学生の立場から「意見を積極的に発信し、若い人にも興味を持ってもらえるようにしたいです」とも話し、「ボランティアを通じて得た学びは、日常生活でも役立ちます!ボランティアは自分の長所を活かして活躍できるので思い切ってチャレンジしてみませんか」と経験値からの言葉です。

植田侑介さんは、今までに砂丘の清掃活動や、勤務する鳥取県信用保証協会の社会貢献の一環である弓ヶ浜や浦富海岸の清掃活動に参加しており、ねんりんピックは「長寿社会の形成に寄与する大きな意義と歴史を持っていることを知り、関わってみたいと思い応募しました」と話します。

また「ボランティアとして参加者の方々の記憶に残るような温かいおもてなしを心掛けたいです」として「県外から来られる参加者の方々に鳥取の人の温かさに触れてもらい、また来たいと思ってもらえるように頑張ります」



社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 ねんりんピックはばたけ鳥取2024ボランティアセンター

【問合せ先】鳥取県鳥取市伏野1729-5 鳥取県立福祉人材研修センター内(鳥取県社協)

電話0857-59-6338 Fax.0857-59-6341(村田・伊井野) E-mail:nenrinvc@tottori-wel.or.jp

■申込フォーム <https://forms.gle/yaP6DKp3a4hCusAQ6>(スマホ・PC) ▶▶▶



ねんりんピック愛顔のえひめ



スタンドでは大声援を送りました



「かみじろう」も一緒に行進

鳥取県選手団はばたく

第35回全国

健康福祉祭え

ひめ大会(ねん

りんピック愛

顔のえひめ2

023)が、10

月28日(土)か

ら31日(火)の

4日間にわた

り愛媛県で開

催されました。

大会には47都

道府県と20政

令指定都市か

ら約1万人が

参加され、鳥取

県からも24種

目153名の

選手監督が参

加してスポー

ツ・文化の交流大会で競技や交流

を楽しみました。

28日(土)に総合開会式が、愛媛

県総合運動公園陸上競技場で開

催されました。入場行進では、各

選手団とも旗手を先頭に20人で行進を行い、スタンドで選手団の皆さんが声援を送るというスタイルで行われました。鳥取県選手団

の皆さんは、入場行進に合わせてとっとり大会のPRキャラクター「あおやかみじろう」のタオルを振って力一杯声援を送りました。

29日(日)からは県内一円で29種目のスポーツと文化の交流大会が行われ、鳥取県の選手の皆さんも日頃の練習の成果を存分に発揮され優秀な成績を残されました。

また、大会終了後には、上位入賞を収められた皆さんに御参加いただき、鳥取県庁において平井知事に成績報告を行いました。

来年度はいよいよ鳥取県でねんりんピックが開催されます。えひめ大会を超える感動と情熱を期待したいと思います。

《主な上位入賞の皆さん》

●個人種目

水 泳 2位 前田 京子

(70〜74歳背泳ぎ25m)

及び50m・女

マラソン 5位 古田 二郎

(60〜69歳10km・男)

●団体種目

将棋

団体戦 ………………3位

ソフトテニス……………ベスト8

ゲートボール(倉吉)ベスト8

成績報告



競技風景



笑顔で語り合える仲間達



ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を同世代のことぶきレポーターが取材をします。「シニア」の「シニア」によるシリーズ。地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなく紹介します。

綾木あつ子さん



綾木あつ子さん(73才)はそんな卯垣3丁目にお住まいです。私とは鳥取市が普及促進している、介護予防のためのシャンシャン体操の活動にお互い一役携わっており、その中で交流を通してのお知り合いの方です。その時の印象は風ほうに親しみがあり、お世話好きで包容

私の知っていた卯垣は田園地帯で、のどかな環境地域という印象がありました。時代の流れなのか現在は開発されて、住宅など建物が増え、便利な地域に様変わりしていました。綾木あつ子さん(73才)はそんな卯垣3丁目にお住まいです。私とは鳥取市が普及促進している、介護予防のためのシャンシャン体操の活動にお互い一役携わっており、その中で交流を通してのお知り合いの方です。その時の印象は風ほうに親しみがあり、お世話好きで包容

御主人の仕事の関係で鳥取県内を転勤で回られていた綾木さんですが、転勤から解放され今の地に落ち着かれてからは、お年寄りに弁当を提供しているメンバーに加わり配食サービスで何十年も頑張っておられます。料理が好きな綾木さんが仲間の方と楽しくされている光景が目に見えます。また、シャンシャンの会の仲間達と、ふれあい運動会、敬老会にも参加し、地域に貢献して盛り上げています。シャンシャン体操は当初、会員が25名もおられたそうです。19年目になれば参加が難しい方も増え、今では15名に減ったそうですが、それでも90才に近い方々が月2回開催の体操に来られています。皆さん

力のある方のように見受けられました。何回か接していききましたが、最初にお会いした時の印象と変わらぬ人柄に心をひかれました。綾木さんは山に囲まれた「智頭」で生まれ育ち、大人数の環境での生活をしてきた方です。それが当たり前だったので、現在、綾木さんのお宅は今では少し珍しく、多世代で暮らす大家族だそうです。そんな御家族の皆さんに手作りの料理をふるまい、さらに漬物などの保存食も作られる綾木さんは、一日中台所に立っていても苦にならないそうで、料理をするのが趣味といっても過言ではないように思いました。

が明るく笑顔で気さくに取材に応じてくださる、すてきなシニアの方達でした。リーダーの綾木さんは、会の内容がマンネリ化しないよう色々と工夫され、時には手作りの物をふるまわれるそうです。仲間の方達も、このような心遣いをうれしく思っているのが感じられます。体操のみならず、お茶を囲んで雑談をするひとときも楽しみのようでした。私も取材でお茶をよばれましたが、違和感がないほど輪の中にとけ込める、温かい雰囲気を感じました。この地域でも少子高齢化が進む中で、気軽に集まる場所があるということは大変貴重なことだと思えますが、人のお世話をすることは御苦労もあることと思います。私自身も地域でサロンを立ち上げているの



シャンシャン体操の仲間

でよくわかりますが、共通する大事な秘けつは、お互い助け合い楽しみながらやることではないでしょうか。取材中、シャンシャン体操で稲葉山公民館の方にも協力していただいていることに、感謝の気持ちを話されました。こうしたお姿から、綾木さんが持つ謙虚さや繊細な気配りに関わる皆さんが感謝をしていらっしゃるのだらうなと感じました。誰もが年を重ねていく日々の中で、体操や配食サービスなど、いつまでも元気でいてもらえるような「社会貢献活動」を心より応援しています。

取材を終えて一言

清水 はるみさん(鳥取市)



高年齢者にとっては心の拠り所にもなり、笑顔で話し合っことが明日への活力にもつながるよう感じました。



地域の運動会に参加

ねんりんピックはばたけ鳥取2024 大会ボランティア募集



あおやかみしろ

第36回全国健康福祉祭とっとり大会

ねんりんピックはばたけ鳥取2024

多くの県民に大会へ参加していただき、全国から集まる選手・役員等を鳥取県ならではのおもてなしの心で温かく歓迎するとともに、式典やイベントをはじめ、大会の円滑な運営を支えていただく大会ボランティアを広く募集します。

■募集人数: 延べ1,000人程度

■募集期間: 2023年6月7日(水)～2024年5月31日(金)

●活動内容: 事前PR活動・ミーティング(企画・提案等)、大会運営補助等

※詳しい活動内容、日程などは下記ホームページでご確認ください。

●応募方法: ボランティア応募フォーム(右記のQRコード)より申し込み、または応募用紙に必要事項を記入の上、下記応募先にご提出ください。

※申込時に18歳未満の方は、保護者の同意が必要となります。

持参の場合は、平日8時30分から17時までを受付時間とします。

応募フォーム
【個人用】

【応募・お問合せ先】

鳥取県社会福祉協議会 ねんりんピックはばたけ鳥取2024 ボランティアセンター

TEL: 0857-59-6338 FAX: 0857-59-6340

メール: nenrincv@tottori-wel.or.jp ホームページ: <https://www.tottori-wel.or.jp/nenrin36/>



ホームページ

介護助手募集!! 60歳～75歳くらいの方、未経験者大歓迎!!

住み慣れた地域で『介護助手』として働いてみませんか

●短時間勤務 ●週2日からでもOK! ※就労条件は、各施設で異なります。

今後、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、高齢者施設等で介護を担う人材が不足していくことから、介護人材の確保は、団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向け、喫緊かつ社会的要請の強い課題です。介護・生活支援に携わる人材を社会全体として確保する取組を進めていかなければいけません。介護助手の取組は、こうした社会的要請にこたえる取組の一つとして全国的に広がりを見せ、元気な高齢者の方々の活躍が期待されています。

★介護助手の仕事の内容

介護助手とは、シニア世代の新しい働き方です。高齢者施設で、部屋の掃除や食事の配膳・片付け、ベッドメイク、趣味活動の手伝い、話し相手など、介護の補助的な仕事を担っていただくものです。

介護の仕事や医療福祉分野の仕事に従事されたことのない方でも可能です。

地域社会への貢献になり、また、働きながら介護を学び、ご自身の健康維持、介護予防にもつながります。

【介護助手として働く方々の声】



68歳男性

福祉職場での経験はありませんが、自分にもできることがあるのではと思い応募しました。午前中みの勤務で、朝食の配膳や下膳、居室整理、ベッドメイキング、洗い物などを行っています。はじめは戸惑うことも多かったのですが、職員の方が丁寧に教えてくださり、今ではすっかりベテランスタッフです。



64歳女性

定年前は、葬儀社に勤めていました。経験は無いですが、人の役に立てたらと思い働くこととしました。最初は戸惑うこともありましたが、利用者さんとの交流を通じて学ばせていただくことも多いなと感じています。食事の準備などの仕事もありますが、培ってきた家事が役に立つことがとても嬉しいし、楽しいです。

●お問い合わせ 福祉人材部 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

令和6年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料(1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から補償 ^(*)		
	地震・噴火・津波による死傷	×	○	
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険)
ホームページ

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

HOTeyeギャラリー

小規模多機能型居宅介護 浜の絆 作品紹介



小規模多機能型居宅介護 浜の絆は介護保険サービスのひとつで、在宅生活をしている方向けの地域密着型サービスです。1番の特徴は1つの介護事業所で「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービスを提供していることです。住み慣れた地域で自立した生活を続けられるように、通いサービスを中心として訪問サービス・宿泊サービスを組み合わせ、日常生活の支援や機能訓練を行っています。

【作品の紹介コメント】

干支のロールアートを作り始めて3年目となりました。作り始める前から利用者から「今年は作らないの?」「早く作りたい!」と声がかかる程(笑)。率先して作品作りに入ってくれる方を中心に利用者と一緒に和気あいあいと作りあげていきました。今回は縦型に作成したことで迫力のある作品が出来上がりました。作品を見て「立派な作品が出来たね!」「みんなで協力して良かった。」との感想が聞かれました。浜の絆の「干支のロールアート」。今後も様々なアイデアを練って、続けて作成していきたいと思えます。

作品の題名「はばたけ! 2024年~空翔ぶ辰~」

実際の大きさ:縦(H):145cm(支え板含め)×横(W):133cm(旗含め)



社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL <https://www.tottori-wel.or.jp> e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

福祉人材の
求人・求職
の窓口です

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

ボランティア活動の
幅を広げる
活動を応援します

鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

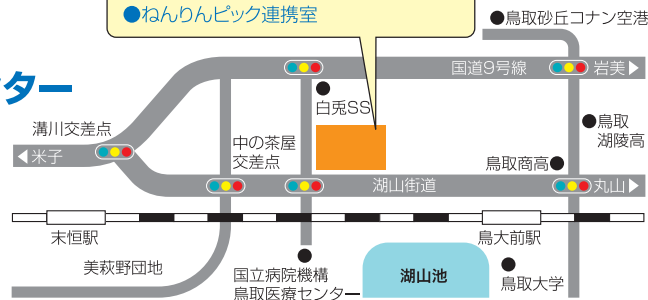
元気な高齢者の
生きがい・社会貢献
を支援します

明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL <https://www.tottori-wel.or.jp/chiiki/kotobuki/>
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp

県立福祉人材研修センター

- 鳥取県福祉人材センター
- 鳥取県ボランティア・市民活動センター
- ねんりんピック連携室



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

